

ポストコロナ時代の学校教育の構築に向けたかとう学園のチャレンジ

～20年先を見据え、未知の状況にも対応できる力の育成を核にした3ヶ年プラン～

かとう学園(宗像市立河東小学校、河東西小学校、河東中学校)

1 かとう学園経営の基盤となる考え方

- ・ 未知なる環境の中で、自力で歩みを進め、意味のある、また責任意識を伴う方法で、進むべき方向を見出し、個人と社会の幸せ(well-being)を目指す人の育成を目指します。(OECD Education 2030)
- ・ 自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人の育成を目指します。(学習指導要領前文)
- ・ 志を持ち、自分の将来や地域の未来を創出する子供の育成を目指します。(宗像市教育基本計画)

2 かとう学園は、次のような児童生徒の育成を目指します

夢と志を持ち、自ら学び実践し力強く未来を切り拓く児童生徒の育成

【自立】自分もつ多様な個性を自ら伸ばす児童生徒

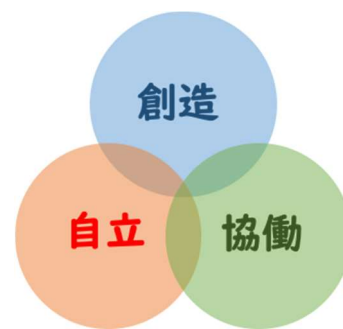
- 自分のよさを認識する
- 自分の目標を持ち、目標に向かって創意工夫しながら努力する

【協働】互いの強みを生かして、支え合い高め合う児童生徒

- 他者のよさを認識し、尊重する
- 進んで人と関わり、知恵を出し合いながら問題を解決する

【創造】責任を持った判断や選択を行い、意味や価値を生み出す児童生徒

- 自分も他者も納得できる「納得解」を追究する
- 自分や他者に責任を持った判断や選択をする



3 このような児童生徒を育むために、かとう学園は、次のような学園を目指します

【自立】

- 関係者一人一人が個性を伸ばし、学園の目標の実現に向けて主体的に取り組む

【協働】

- 児童生徒や関係者一人一人の多様性を尊重し、互いの強みを生かしながら支え合い高め合う

【創造】

- 自立と協働を通じて、児童生徒の成長及び学校に関わる人にとっての価値の創造に貢献する

4 このような児童生徒、学校を目指すために、かとう学園は、次のような課題の解決に取り組みます

【社会の現状について】

- 新型コロナウイルス感染症等に対して、心と体の健康と安全を守り、学びをとめないための学校づくり
- GIGA スクール構想、小中一貫コミュニティ・スクール等、新しい学校への転換

【児童生徒の状況について】

- 自ら進んで課題を発見し、解決しようとする取り組む態度の育成
- 学習への期待感、主体的に学習に取り組む意識の醸成

【学校の状況について】

- 学習の意義を実感し、主体的に学習に取り組む態度を育む学習指導やカリキュラム・マネジメントの日常化
- 教育活動に一貫性を持たせる評価・改善システムの構築

5 そこで、令和3年度からの3ケ年は、次のように目標に重点を置き、学園経営を進めます

重点目標

- 目標を設定し、振り返りながら行動する児童生徒の育成 【自己調整能力】
- 互いを尊重し、かかわり合い、つながり合う児童生徒の育成 【対話(協働)力】

かとう学園の学びは、「学習者主体」を基盤としています。学習者である児童生徒自身が「見通し・行動・振り返り」の主体となることができるように、自己選択・自己決定することを大切にします。また、自分と他者を共に尊重し、自分たちにとってよりよい学園づくりに向かうことを大切にします。

かとう学園全体で共有するキーワード

描く【Design】

- 在りたい自分や社会(学校)の姿を描く
- 自分の学びを描く(何のために、どのように)

つながる【Collaborate】

- 対話を通して、互いに納得できるよりよい考えを生み出そうとする
- 自他を価値ある存在として尊重する

創り出す【Create】

- 目標に向かって、自ら働きかけ、自ら型をつくり、振り返りながら責任ある行動をとる

めざす児童生徒の姿を共有する指標の観点(案)

自己調整	<ul style="list-style-type: none"> ①ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあるか ②難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか ③将来の夢や目標を持っているか ④家で、自分で計画を立てて勉強をしているか ⑤授業で学んだことを、ほかの学習に生かしているか ⑥授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか ⑦授業では、どのように学習するかを考えたり、工夫したりしているか ⑧勉強は好きか ⑨勉強は大切だと思うか ⑩分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えるか ⑪今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思うか
対話(協働)	<ul style="list-style-type: none"> ①自分によいところがあると思うか ②他の人の良いところが言えるか ③みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがあるか ④学校に行くのは楽しいと思うか ⑤人が困っているときは、進んで助けているか ⑥いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか ⑦人の役に立つ人間になりたいと思うか ⑧話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか ⑨人といっしょに話し合ったり、考えたりするのは大切だと思うか。

このような児童生徒を育成できる学校(学園)として、次の点から学校のバージョンアップを進めます

【学びの構造転換 見方・考え方をバージョンアップ】

- 「学習」「学び」「学校」等について、教職員が、児童生徒、保護者等とともに、見方・考え方を 問い直し、「学習者主体の学び」「学習者主体の学校」へ

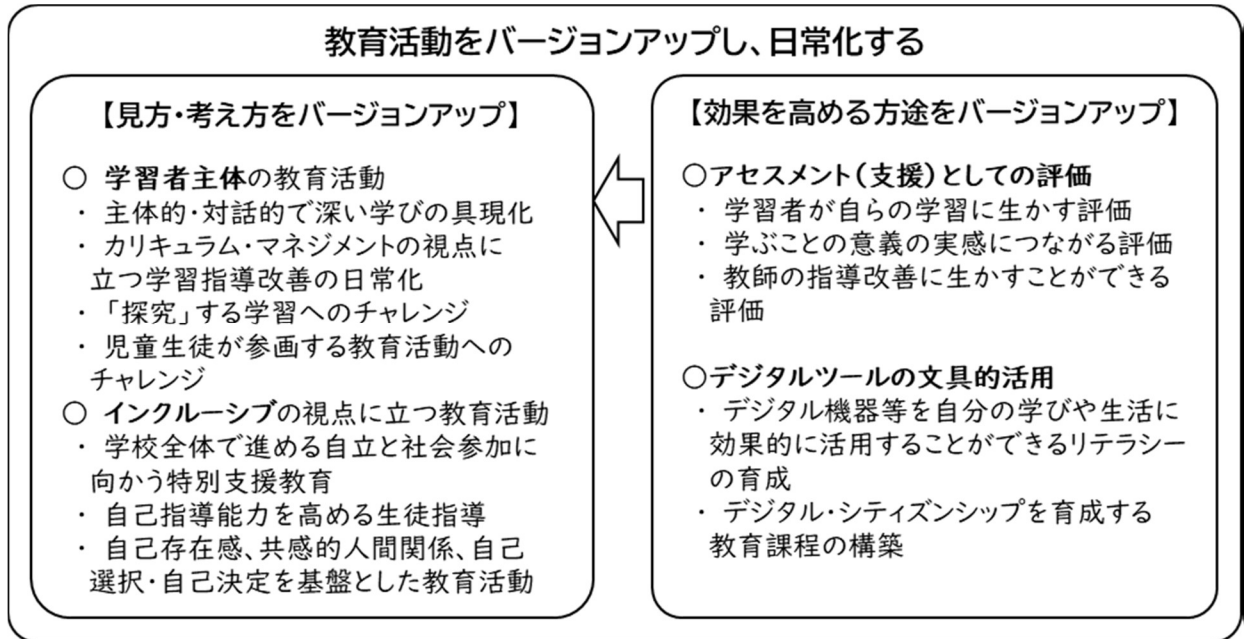
【学習する組織へとバージョンアップ】

- 学習と成長の意思を有する人に成長のチャンスを与え、自らも学習して進化する組織としての 学校へ
- ①システム思考(関連性や関係性に着目して、全体として考える) ②自己実現(学習する個人) ③メンタルモデル(固定観念の打破)
- ④共有ビジョン ⑤チーム学習

【カリキュラム・マネジメントの日常化】

- 教育の質を高め、学習効果の最大化を図る営みを日常に
- ①教科登壇的 ②編成、実施、評価、改善の循環 ③教育資源の開発、確保、活用

6 そこで、次の取組の重点に沿って、学園として取り組んでいきます



【学習者主体】

- 「教わる」授業から「学ぶ」学習へと、日常の授業観を転換する。教師はもちろんのこと、児童生徒も同様である。「何のために学ぶのか」「何ができるようになろうとしているのか」これらの問いに児童生徒が答えることができ、学ぶことの楽しさを味わうことができることをめざす。
- そのためには、児童生徒にとって学びがコントロールできない与えられるものとしてではなく、自分で選択・決定ができコントロールすることができる自分のものとなる必要がある。そのことが、自分の学びに自分で責任をもつことにつながる。

【インクルーシブの視点】

- これまでの学校は、「みんなで同じことを、同じように」を過度に要求する面が見られ、学校生活においても「同調圧力」を感じる子供が増えていったという指摘がある。(中教審答申 R3.1) これからの学校では、一人一人の「違いを認め、生かし合う」ことを基盤に、学びの個別最適化と協働化を進めていく。特別支援教育、生徒指導、人権教育等を学校全体の教育活動の基盤とし、充実させることが、学園でめざす「自立・協働・創造」につながる。

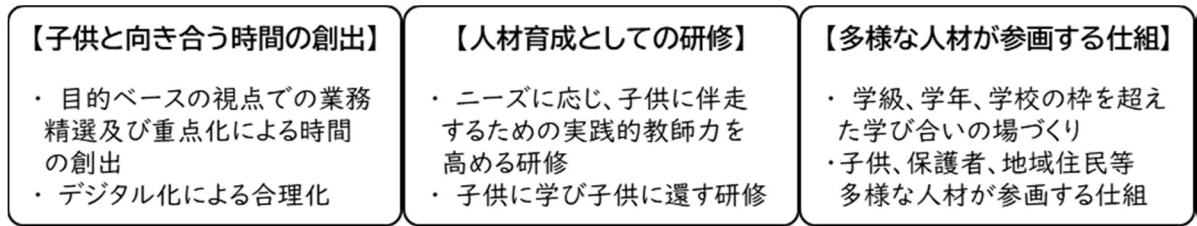
【支援としての評価】

- 学習観の転換は評価観の転換抜きには実現しない。評価は、学習者である児童生徒にとって、自分の学習を改善するために役立つものでなければならない。また、指導者である教師にとって、児童生徒の学習につながる教師の指導を改善するために役立つものでなければならない。評価は学習者である児童生徒にとっての学習ツールと考え、児童生徒の学びを支援するための効果的な評価を工夫し、日常化していく。そのことが、学習と指導の質の向上につながる。

【文具としてのデジタルツール】

- GIGA スクール構想による一人一台端末の導入は、デジタルツール (ICT 機器) を、分かりやすく教えるためのツールから、児童生徒が効果的に学ぶためのツールへと変えることである。超スマート社会をよりよく生きるためのリテラシーとしてのスキルとともに、見方・考え方 (デジタル・シティズンシップ) を、身に付けていくことが求められる。日常的な文具としてデジタル端末を使いこなすことが、それらのリテラシー等を身に付けることにつながる。

取組を効果的に進めるための3つの方策



【子供と向き合う時間の創出】

- 教育活動の質を高めるために、これまで当たり前とされていた行事や取組を見直し、目的に照らして廃止、削減、修正を行い、真に重要な子供と向き合う時間を生み出す。
- GIGA スクール構想を活用し、デジタル化による業務の合理化を試行し、知見を集める。

【人材育成としての校内研修】

- 研修を通して、日常の教育活動の質が向上したと言える校内研修
- 目指す児童生徒の姿に向かう変容が現れる校内研修
- 一人一人の教師が、自分及び自分たちにとっての学ぶ意義と責任をもつことができる校内研修

【多様な人材が参画する仕組み】

- 固定化された学習集団や教師と児童生徒の関係ではなく、学級、学年、学校、校種の枠を超えた学びの場を意図的に作りだし、多様化された関係性の中で一人一人の可能性が活かされるようにする。
- デジタルツール等を効果的に活用し、子供、保護者、地域住民等が教育活動に参画できる場を構築する。

7 これらの取組を、次の組織が起点となって、学園全体で取り組んでいきます

